
一般講演・口頭発表 O-03

西日本における淡水ガメの分布

谷口真理・亀崎直樹・三根佳奈子(神戸市立須磨海浜水族園)

Distribution of fresh water turtle in Western Japan

Mari TANIGUCHI, Naoki KAMEZAKI and Kanako MINE (*Kobe-Suma Aquarium*)

西日本の淡水ガメの分布を明らかにするために、カメ捕獲専用の捕獲網を用いてカメを捕獲し、種組成と密度を調べた。密度の指標には、1網あたりに捕獲されたカメの個体数(Catch Per Trap, 以下CPT)を用いた。沖縄から静岡までの西日本46地域の川や池でカメを捕獲したところ、合計4645個体を捕獲し、その内、最も多かったのは、ミシシippアカミミガメ*T. scripta*(以下アカミミガメ)2100(45.2%)、次いでクサガメ*M. reevesii* 1948(41.9%)、ニホンイシガメ*M. japonica*(以下、イシガメ)505(10.9%)、スッポン*P. sinensis*52(1.1%)、その他40(0.9%)と続いた。密度は、アカミミガメ1.1、クサガメ1.0、イシガメ0.2、スッポン0.02、その他0.02で、北米原産のアカミミガメが割合、密度共に最も高かった。アカミミガメは、南は沖縄、

東は静岡までの39地域(85%)で確認され、西日本において広く侵入することがわかった。特に割合、密度が高い地域は、沖永良部、福岡平野、筑後平野、四万十川河口、高知平野、兵庫・中播磨、兵庫・東播磨、兵庫・阪神南、和歌山平野、奈良盆地、三重南部で、モザイク状に存在した。江戸時代以降に日本へ人為的に持ち込まれたとされるクサガメは、沖縄から静岡までの40地域(87%)で確認され、アカミガメ同様広く侵入することがわかった。相対的に密度が高い地域は、熊本・天草、徳島南部、島根、兵庫・西播磨、中播磨、淡路、和歌山平野、奈良盆地であった。日本固有のイシガメは、南は種子島、東は静岡までの34地域(74%)で確認されるのみであった。相対的に密度が高くイシガメが優占する地域は、湖南、種子島、三重南部のみであった。在来と外来が混在するとされるスッポンは17地域(37%)で確認されるのみであった。